

第4回重要課題専門調査会における専門委員からの主な意見

第4回重要課題専門調査会（平成26年11月27日）では、平成26年度のこれまでの取組や平成26年度専門調査会の審議方法について、専門委員から以下のような意見があった。

- 個々のテーマは光っているが、実装までのシナリオへの取り組みがまだ足りない
- 個々のコンポーネントは良いが、インテグレート力が弱い。弱点をどう克服するか。たとえば、PDのように、強いリーダーシップのもとでプロジェクトをまとめられる人材を育てる環境をつくることも必要ではないか。
- システムとして取り組むためのICTが重要。全体をICTで括るような議論ができていないのではないかと。大きくまとめて議論ができるようにすべき。
- 政策課題解決のために必要な提案が各省から出揃っていない。また、連携として提案されても、本質的な相乗効果が上がっていない。
- 府省連携を必須としたため、単独施策になりやすい基礎研究の部分が提案しづらかったのではないかと。
- 科学技術のアウトプットが地域に価値を生むような取り組みを考えることが必要
- ヒアリングは大きなテーマに絞るなどして効率化を図る必要があるのではないかと。
- 各省の説明者が自省の取り組みの全体を把握していないことが多い。それでは効果的な議論ができない。
- どの市場をターゲットにするのかを見極めた上で、何をやめるべきかの判断も重要